トップニュース

戦後80年 各地で追悼法要

沖縄、長崎、広島でご門主がお言葉

第2次世界大戦の終戦から80年の夏。宗門でも戦争犠牲者を悼み、非戦平和の誓いを新たにしようと、各地で法要やつどいが行われている。この中、7月3日の沖縄県宗務特別区「太平洋戦争全戦没者・沖縄戦終戦80年追悼法要」（写真右、沖縄県糸満市・平和祈念公園）、4日の「戦後80年全戦没者長崎教区追悼法要」（同左上、長崎県諫早市・諫早文化会館）にご門主が臨席され、5日の「広島別院・安芸教区 全戦争死没者追悼法要並びに原爆忌80周年法要」（同左下、広島市中区・同別院）は、ご門主ご親修でつとめられた。各法要にあたり、ご門主がお言葉を述べられた。

ご門主はそれぞれの地で、一般住民を巻き込む悲惨な地上戦が行われた沖縄、被爆地である広島と長崎の歴史を振り返られ、戦争犠牲者に哀悼の意を表し、この80年間に各地で進められてきた平和への歩みに心を寄せられ、「私たちはあらためて苦難の歴史に思いをいたし、非戦平和への誓いを新たにすることが大切です」と述べられた。

また、「仏法の名において戦争を肯定し、賛美してその遂行に積極的に協力していった過去の事実を、仏祖の御前に慚愧（ざんき）せずにはおれません」との、教団の戦争責任にかかる即如門主（前門さま）の言葉をあらためて心に銘記すべきでありましょう」と示された。

そして、戦争が人間の自己中心性、無明煩悩（むみょうぼんのう）に起因するものであることに言及され、現在も世界の各地で戦火の続く現状に対し、「私たち念仏者は、全てのいのちある者に等しく注がれる阿弥陀如来の大悲のお心、また『殺してはならない、殺さしめてはならない』という釈尊のお心や、『世のなか安穏（あんのん）なれ、仏法ひろまれ』と願われた親鸞聖人のお心に立ち返り、これらのお心にかなうべく、核兵器のない平和な世界の実現に向け、たゆみない歩みを進めてまいりましょう」と呼びかけられた。

いずれの法要にも園城義孝総長が参列し、今年4月に発表した「戦後80年にあたっての平和を願うメッセージ」を読み上げた。

（法要の様子は8月10日号）

「海の日」に久留米大学病院でがんで亡くなった子ども偲び追悼の会

医療関係者、遺族と佐賀・光蓮寺で30年超

福岡県久留米市の久留米大学病院で毎年7月の「海の日」、小児がんで入院し、亡くなった子どもたちを追悼する会が開かれている（写真）。会では、佐賀県基山町・光蓮寺の山内智宏住職がおつとめをし、子どもを亡くした親たちがわが子への思いを語り合っている。「海の日」を前に、山内住職、会のきっかけを作った前住職夫妻（山内教圓さん、奈美子さん）らに思いを聞いた。

会を始めるきっかけとなったのは36年前、前住職夫妻の次女が小児がんを発症し、同病院に緊急入院したこと。奈美子さん（81）は「病棟で、娘にはたくさんの友達ができた。でもその子たちの中には、治療のかいなく亡くなっていく子もいた。私たち夫婦も娘もつらく悲しい思いでいっぱいだった」と振り返る。次女は退院したが、奈美子さんは「子どもを亡くした親の悲しみを受け止め、亡くなった子どもの『いのち』について深く考える場として、追悼法要（初盆）をつとめることはできないか」と主治医に相談したという。

医師から紹介されたのが栗田弥生さんと髙橋和子さん。2人は、同病院小児血液グループ親の会「木曜会」の世話人で、子どもを亡くした親、闘病中の子を持つ親らが語り合い、悲しみや苦しみを分かち合う場を作っていた。2人は奈美子さんの申し出を快諾した。

追悼の会は木曜会が主催し、1994年7月に始まった。「海の日」ができたことで96年からは、この日に固定された。現在も、木曜会の世話人を務める髙橋さん（78）は、1982年に長女・聖子（せいこ）さんを9歳で亡くした。「追悼の会をすることで強烈に娘のことを思い出し、最初の頃はその帰り道、泣きながら車のハンドルを握っていた。でも、会を続けてきてよかった。聖子はいつまでも私の中で生き続けており、会はそのことを確認する大切なご縁となった」と語る。

奈美子さんは「わが子が亡くなった病院の近くを通ることさえ避けていた方が参加し、『自分と同じ悲しみを抱いている人がいると知り、そうした方々と語り合うことでほっとできた』と言われた。会を続けていてよかった」と話す。

会は、病院内の会館で行う。組み立て式の宮殿（くうでん）を持ち込み、阿弥陀如来像を安置しておつとめする。医師や看護師など医療関係者を含め毎回50人ほどが参加し、献花するという。教圓さん（86）は「いろんな宗教の方がおられるので、最初は阿弥陀如来像は遠慮し、法輪を掛けたが、栗田さんから『阿弥陀さまは誰でも分け隔てなく救う仏さまなので問題ない』と言われ、2年目からは阿弥陀さまをご安置させていただいている」と話す。

おつとめの後には、遺族や患者家族が心境を打ち明け合う。教圓さんは「自分だけがつらい、悲しいと思われていたご遺族が、語り合うことで、同じような思いを持つ仲間の存在に気づいていかれる。互いに支え合うことで心安らぐ世界が生まれているのではないか」と語った。

2019年からは山内住職（59）が引き継ぎ、おつとめを行っている。「語り合いの場では、子どもを亡くして日の浅いご遺族が涙で声を詰まらせ、マイクを握ったまま沈黙が続くこともある。その場にいるのが本当につらいほど、心の痛さと悲しみが伝わってくる。ただ、子どもたちについて語ることが、ご遺族の生きる支えになっているとも感じる。ご遺族や治療にあたった医療者が、子どもたちの思い出を切々と語るのを聞くと、心の中にいつまでも子どもたちが生きているのだと感じ、深いいのちのつながりに気づかされる」と話す。

山内住職はその経験を昨年までの4年間、宗門校・筑紫女学園高校（福岡市中央区）医進コースの生徒に、「いのちを考える」というテーマの集中講義で伝えた。「受講した生徒に会への参加を呼びかけたら、多くの生徒が応じてくれた。ご遺族らの語り合いの場にも同席した生徒たちは『子どもたちが亡くなった後も、こうして子どもたちやご遺族に寄り添い続ける医療者になりたい』と言ってくれた」と語る。

今年も7月21日に追悼の会が開かれる。

久留米大学病院小児血液グループ親の会「木曜会」と佐賀県基山町・光蓮寺が手を携え、小児がんで亡くなった子どもたちの追悼の会が続けられる。（右から）木曜会世話人の髙橋和子さん、山内教圓前住職、智宏住職、奈美子前坊守

本願寺新報
hongwanji journal

7月20日（日曜日）

毎月1日・10日・20日発行

発行所　本願寺新報社
京都市下京区堀川通花屋町下ル　浄土真宗本願寺派（西本願寺）本願寺出版社内
〒600-8501
電話 075(371)4171(代) ／ FAX075(341)7753

浄土真宗聖典の学習誌
季刊せいてん
151号 好評発売中 特集「意外と知らない『歎異抄』－異義篇を読む－」
年4回発行／B5判 一部700円／年間購読2,800円（税・送料込）
本願寺出版社 お申し込みは、お電話またはFAXで 0120-464-583 075-341-7753

今号の紙面

伝道院で学ぶ文化講座が人気…8

みんなの法話……4
学ぶ親鸞聖人　ご生涯×教え…5
お釈迦さまの前世物語……3
季節の養生と薬膳……3
本願寺インスタ倶楽部……3
読者のひろば（俳壇・歌壇）…7

赤光白光

〝聞く〟のにはコツがいる。「面白そうに聞く」「相づちを惜しまない」「知ったかぶりをしない」などは入門編で、巧みな聞き手は観察力にたけていて、相手のテンポや間（ま）を大事にするし、話が脱線した時の軌道修正がスマートだ。

▼経験上、なかなかそのコツ通りにいかないのが、〝人生の大先輩〟である。質問と答えが少々かみ合わなかったり、同じ情景やせりふの繰り返しは覚悟していても、思いもよらぬ方向に話が迷い込んでしまってどうにも本線に戻ってきそうにない時などは難しい。時計を気にし始め、気がつけばこちらから急押しするようにして結論を急いでいる未熟な聞き手の私がいる。これでは本末転倒だ。

▼終戦80年追悼法要の取材で赴いた沖縄で旧知の人に再会した。彼は島の大先輩たちの話をしながらこう語った。「例えば沖縄戦の話を聞いていても、話の筋があっちこっち行って何が言いたいのかわからないことがある。決して理路整然とした話は聞けないかもしれない。だけど、おじいやおばあの言葉には『力』がある。なぜか心が震える。それはたぶん、体験に裏付けられた本物の言葉だから。だから私はおじいたちの話を聞くのが好きなんだと思う」。

▼仏法を聞くことを「聴聞」というが、「聴」は求めて聞くことで、向こうから聞こえてくるものを心に留めていくのが「聞」と教わった。自分勝手に聞くことを〝聞く〟とは言わないのだろう。節目の年、本物の言葉に耳を傾け続けたいと思う。

購読料 1部120円（年間4,080円） 定期休刊 7月10日、12月10日
浄土真宗本願寺派 代表電話
宗務所 075(371)5181／大谷本廟 075(531)4171

宗派公式Webサイト　https://www.hongwanji.or.jp
本願寺ホームページ　https://www.hongwanji.kyoto

最新刊

『倶舎論』とその諸註釈における三世実有論批判の研究 ―仏教の時間論―
那須円照著　定価12100円（税込）
アビダルマ仏教の最盛期の学説綱要書である世親著『倶舎論』と、そのインドの諸註釈書の中の、「随眠品」における説一切有部の三世実有論を紹介し、それに対する経量部の立場からの批判について論じた箇所を解説・和訳する。

鏡如上人（大谷光瑞）及び籌子裏方年譜
赤松徹眞編　定価15400円（税込）
本年譜は、本願寺教団の管長・宗主として多角的な視野と構想により教団を統率・運営し、内閣顧問などにも就任した鏡如上人（大谷光瑞）と、総裁として各地の仏教婦人会の結成や活動に尽力した籌子裏方の事績を編纂したもの。

東西本願寺120のちがい
鎌田宗雲著　定価3300円（税込）
主に前半は、東西本願寺の組織・寺紋・荘厳・勤式・作法など二〇項目のちがいを紹介する。後半は、歴史的な視点も踏まえて東西本願寺のちがいに着目し、主にお東騒動に関して時系列で振り返りながら解説する。

永田文昌堂　600-8342 京都市下京区花屋町通西洞院西入
TEL 075-371-6651　FAX 075-351-9031

法藏館
https://pub.hozokan.co.jp

重版
正信偈もの知り帳
野々村智剣[著]　仏教文化研究会[編]
誰もが知っている『正信偈』でも、ほとんど知らないその中味。『般若心経』とどう違う？からはじまり、『正信偈』を身近にする。九三五円

大乗仏教がひらいた 妙好人の世界
菊藤明道[著]
妙好人を世界に知らしめた鈴木大拙をはじめ、柳宗悦、楠恭氏などの妙好人研究の軌跡を辿り、その霊性的世界と今日的意義を問う。
四、九五〇円

法藏館文庫
女の信心 ―妻が出家した時代
勝浦令子[著]
古代から中世の婚姻・出産・育児・家事という女性の日常や死と死後の世界に結びついた習俗と信仰から日本人の信仰を明らかにする。
一、五四〇円

現代語訳 六要鈔
柳瀬彰弘[著]
存覚の『六要鈔』は親鸞の主著『教行信証』を体系的に註釈した最初の書物であるが、難解な『六要鈔』に現代語訳を試みた意欲的労作。
一、六五〇円

〒600-8153 京都市下京区正面通烏丸東入ル　TEL 075-343-0458　FAX 075-371-0458
表示価格は全て税込　新刊メール配信中！　お買上16,500円（税込）以上送料無料

探究社　https://www.tankyusha.co.jp

お寺と家庭をつなぐ法話の便り
よろこび
執筆者　斯波 徹真　浄土真宗の風景　三上 章道　前田 壽雄　德上人ゆかりの亀　近松 真定　日蓮聖人と蒲冬祭
1500円
※100部以上のご注文で割引有

お盆
よろこび

新装改訂版
癌告知のあとで
B6判並製・248ページ　1540円
ガンと告知され、その衝撃を乗り越えて病気と闘う当時四十六歳の坊守が病床より書き綴った心の軌跡の書であるとともに自分自身の病状を冷静に観察し、その思いを詩と短文で客観的に表現した感動深い書。

2026（令和8）年版
お念仏のこころをはぐくむ
ほのぼのカレンダー
A3判・タテ42cm×ヨコ29cm　1部150円
2026（令和8）年版『ほのぼのカレンダー』を好評発売中です。例年通り、故東井義雄先生のお言葉を標語とし、毎月の画と文字は故谷内正遠先生の版画となっております。また、標語の解説書となる『こころの味を大切に』も1冊110円で発売中です。
さらに今年は寺院名等を印刷されている方にはもれなく、されていない方にはカレンダー50部以上のご注文で「お念仏のこころをはぐくむ ほのぼのカレンダー」の文字入りクリアファイルをプレゼントさせていただきます。

〒520-0027　大津市錦織2丁目9-30-101
TEL 077（599）4201　FAX 077（599）4220
【e-mail】post@tankyusha.co.jp　【表示価格は税込み】

藪内流の茶道精神
正直　清浄
禮和　質朴
すなほなる　心をうつすわざなれば
手つきまがらず　すなおなるべし
茶道 藪内家燕庵
家元　京都市下京区西洞院正面下ル　☎(075)343-0215
藪内家燕庵HP http://www.yabunouchi-ennan.or.jp

本願寺出版社
広告募集中
詳細やご相談は、当社広告担当までお気軽にご連絡ください。
TEL 075-371-4171
FAX 075-341-7753